

内湾におけるサンゴ移植指針(案)について ～沖縄西海岸道路整備に伴うサンゴ移植事例のまとめ～

南部国道事務所 調査第二課 課長 ◎大城照彦
調査係長 城間健男
調査係員 ○吉田 靖

1. 目的

那覇西道路は、沖縄西海岸道路の一部として、国道58号の混雑緩和、那覇空港へのアクセス向上等を目的として、那覇市若狭を起点に鏡水まで延長3kmで計画されている。

那覇西道路の仮設栈橋建設により影響を受けるサンゴを可能な限り保全する事を目的として、移植したサンゴの生育状況について平成15年度よりモニタリングを行っている。今回はモニタリング調査の最終年度として「内湾におけるサンゴ移植指針(案)」を作成し紹介するものである。

2. 内容

仮設栈橋建設場所に生育しているサンゴを近傍の海域に移植し、移植技術の成否、移植サンゴの環境調査等を行った。この結果を整理、解析・考察して、サンゴ移植案を作成した。なお、サンゴ移植案の作成にあたっては専門家の知見を踏まえて作成した。

3. 結論

サンゴ移植の目標については移植元や移植先の環境、移植対象種等の違いにより生存性は著しく異なり一般的な目標値を設定する事が困難である。移植技術の適応性については、移植先の対照区として移植元の天然礁におけるサンゴの生存・死亡状況等を調査して移植サンゴの歩留まりと比較した。

移植先、移植元の両者は概ね同程度の歩留まりである事が確認され、比較的高い生存率であったこと等から十分な成果が確認できたといえる。

4. 今後の問題点

本事例のように詳細なモニタリング調査が行われ、また非常に高い歩留まりとなっている例は少ないため、今後同じような事例の移植技術の成果を集積していき、サンゴ移植指針を充実させていくことが望まれる。